

指導教員名	山川拓也
-------	------

活動区分	地域活性化型	連携先	企業

～ (株)宿場JAPANに対する神戸市灘区のCBT計画の提案 ～

活動の様子



企画・活動概要

多文化共生の基盤づくりをテーマに「地域融合型」宿泊施設の企画・運営・開業コンサルを生業とする(株)宿場JAPANの協力のもと、神戸市灘区水道筋商店街・灘中央市場界隈にある地域生活資源を活用したCBT(Community Based Tourism)が基軸となる観光マーケティングの具体案を検討し、同社ならびに同地域の関係者に提案するものである。

経緯・背景・目的

この活動は「観光施設計画論」の授業の一環としておこなわれたものであり、例年と同様に(株)宿場JAPANとの協力関係のもと、地域の総合的な観光施設計画について学ぶための機会とした。



取り組む課題

Community Based Tourism(CBT:地域主体・地域融合による観光)の観点から、地元の日常生活区域内にある既存生活施設(=非観光施設)が潜在的に有している観光施設としての利用可能性を認識し、非観光地であるローカルな日常生活区域内での持続可能性に配慮した観光マーケティング戦略としての「新しいタイプの観光施設の創造的計画」と「新しいタイプの観光施設を媒介とした観光としての人的交流の創出」に資する提案をおこなった。

本学(学生)の役割

地元根拠に活動されている方による特別講義や現地フィールドワークおよび議論・発表といったアクティブ・ラーニング(能動的学修)を通して、提示された課題を学生らしい視点・マーケティング手法を活用して提案する。具体的には、「神戸のふつう」をテーマに、地域の日常を観光資源として再発見するフィールドワークを起点に、「神戸のふつう」をストーリー仕立てで紹介するマップ資料をグループで制作し、発表・提案することとした。



活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

履修者を4グループに分けて実施したフィールドワークと議論により得られた内容をもとに、グループ毎で提案をまとめ、(株)宿場JAPANの渡邊崇志氏・今津歩氏、ゲストハウス萬家の朴徹雄氏に対する提案プレゼンをおこなった。今回の教育成果としては、観光の実体・実相をステレオタイプ的にイメージ化されたレンズで認識するのではなくこれまでと異なるレンズで視野広く捉えるといった、クリティカル・シンキングの基礎を学生は身に付けることができたのではないかと考えている。



指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



人間社会学部
観光学科
准教授
山川拓也(ヤマカワタクヤ)

<専門・担当科目等>
観光経済学、
観光マクロマーケティング、
観光消費文化論

<関係者・企業等>

株式会社宿場JAPAN
事業開発部 エリアマネージャー
今津歩 様(イマツアユム様)